OSAKA・Ⅱ ZONTA CLUB

大阪Ⅱゾンタクラブ第43号（2017年3月）

巻頭言

会長　笠置　伸子

新年あけましておめでとうございます。

大阪Ⅱゾンタクラブは設立23年目に入ります。大阪Ⅱゾンタクラブにおいては、将来に向って新たなる希望の道を開く事が重要です。当面の課題は会員増強、チャリティーイベントの収益確保です。会長になって半年がたちましたが、他クラブのイベントに参加して、収益の大きさと新入会員の勧誘の努力には頭が下がります。

両方ともとても難しい問題として捉えるか、ゾンタクラブの会員である以上当たり前のこととして捉えるかによって受け取り方が正反対になると思います。会員増強はいろいろなアンテナを伸ばし、広げて、今までの人間関係の中で角度を変えて新たな目で探してみる。それにはゾンタのボランティア活動を正しくたくさんの人に知ってもらう事が重要です。会員自身が魅力のある人間性を持ち、輝いた生活を送る事が出来ているかどうかを常に省みる事も、会員増強には大切なことだと思います。次には新しい場所で会員を増強する事だと思います。例えば会員増強と収益確保がイベントで出来れば一挙両得なのですが、なかなか成功に結び付きません。大きな会場で沢山の人に来てもらい、ゾンタの存在をアピールすれば良いのですが、会員が揃って一丸となって活動を行うのが一番重要なことだと思いますので、日曜日以外にするというのは不可能な事です。日曜日にイベントをするので会場の確保が難しいのと、金額的なことや色々と問題が山積いたします。このような中でも楽しく会員の絆を大切にして意義ある活動を続けていけるのがゾンタクラブだと思います。一歩一歩着実にレベルアップを目指していく所存です。

このことは決して他の人に言って強要しているのではなく、会長としての自分自身の道標です。皆様と一緒になってしなければ出来ない事なので、お一人でも多くの人の賛同を頂いて同じ気持ちでボランティアと言う空間を共有出来たらこんな幸せなことはありません。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

観光学

内藤　惠子

９月の卓話は、和歌山大学観光学部教授　竹鼻圭子先生のお話を聞きました。国立大学では唯一で新しい学部について興味深く聞かせていただきました。

1. MICE（MEETING，CONVENTION，INCENTIVE，EVENT）
2. ガルテン
   木の花ガルテン：大分県農協が始めた。農業改革から交流企画へ発展した。
   秋津野ガルテン：和歌山県で、株式会社がグリーンツーリズムの交流企画としてはじめた。
3. 万博
   万博と世界の関係、文化、産業、経済などの効果。
4. ボランティア
   交流企画としてのボランティアツアー。
   ダークツーリズム：災害が起こったところへ出かける。
5. おまけ：茶事
   裏千家　講師　『茶―利休と今をつなぐ』を英訳されています。

ワイン選びの楽しみ

尼木　純子

10月13日の卓話は、宝塚ワインと文化の会の会長野田一三様にお願いし、ワイン選びの楽しみについてお話いただけることになり、とても楽しみにしておりました。

いつもは乗用車でゾンタの会に出席するのですが、当日は車を置いてワインを堪能しながら美味しい料理に舌鼓を打ち、ワイン選びの基本から丁寧にお教えいただき、とても充実した愉しい時間を過ごすことができました。

まずは、赤白のモスト（ワインになる前のジュース）を賞味し、その後白ワインは、カヴァ（スペイン、キンキンに冷やすと美味しい）、ブルゴーニュ（フランス）を、赤ワインは、シャトーベルローズ2011（フランス）、ベラティナ2011（オーストリア）を賞味しました。

ワインは、ブドウの段階からすでに液体のタイプで何年ものか決まってしまうこと。

ワインの品質を決めるものは、1. 品種30%（ブドウの品種は700種ほどあるが、ワインになるのは、420種）、2. 気候30%（夏に乾燥し、冬に雨が降る地中海性気候）、3. 土壌30%　（砂地）、4. 人の努力10%であること。

ワインの選び方は、

1. 裏のラベルを見る。
2. 瓶の形状で判断する（瓶の底がへこんでいるものは長期熟成用、瓶の背が低くて胴が太いものはブルゴーニュでそこそこいける）。
3. 表ラベルを読む
   ①原産地　②醸造元　③どこで誰が瓶詰めしたか　④格付けQbA,QmP等
   ⑤ブドウ品種（赤）カベルネ・ソーヴィニョン、ツヴァイゲルト、（白）シャルドネ、リースリング、トレビアーノ
4. ソムリエ・ワインアドバイザーの助言を求める。
5. 自分の感性、直観で　　ソースは濃厚→赤・ボディが重い。
   ソースがあっさり→白・ボディが軽い。

これらの説明をしていただいた後、特徴的なラベルの説明をいただき、最後にテーブルマナーの基本をお教えいただきました。

気心の知れたゾンタの仲間と美味しいワインとお食事を賞味出来て最高の一日でした。

日本絵画を読み解く（2017.1.19）

牛田　三千子

2017年のゾンタ活動は、２年に一度の恒例である大阪Ⅰ・Ⅱクラブ合同新年会からのスタートとなりました。場所はホテルニューオータニ大阪にある料亭「花外楼」で、窓の外には大阪城、目の前のテーブルには新春の趣向をこらした美しいお料理、とこれ以上ない贅沢な一夜となりました。

夕方５時半から30分程度の例会を両クラブそれぞれが行ったのち、本日のメインイベントである卓話が始まります。今回のテーマである「日本絵画を読み解く」と題された日本画の奥深いお話を、大変わかりやすいご説明で伺うことができました。

講師の先生は、京都嵯峨芸術大学教授の佐々木正子先生で、ご専門は江戸時代を中心とする日本絵画とのこと。まず、日本絵画を鑑賞する約束事（ルール）からお話を始められました。

絵巻物は右側から巻き取っていくことで左側に新しい画面が出てきますが、それはつまり左側ほど未来を表すという構成法になるということです。ですから人物像の左向きの人は出てゆく人、右向きはかえって来た人あるいは訪ねて来た人と解釈されます。また、日本画には花鳥風月が多く描かれ季節感を大切にしますが、四季図を鑑賞する場合も左側ほど先の季節として反時計回りに季節の進みを見てゆきます。

日本絵画の特徴の二つ目は、主たるモチーフの周囲がぼんやりと描かれていたり全く描かれていなかったりすることです。西洋絵画が光と影を書き込んだりしてリアルに細部まで表現するのとは対照的です。これは鑑賞する人に自由に想像、解釈してもらうためで、腕の立つ絵師ほど省略が多くなります。

さらに日本絵画の大きな約束事は影を入れないということです。西洋絵画は陰影法といって光と影を入れることによって遠近を表したり時間を示したりしますが、日本絵画では画面を汚すということで影をいれることはタブーになっています。その代り日本画では「隈取」が影を表す約束事となっています。

そのほか、軸の落款印章は外側に入れられるので、右に落款がある軸は右側に展示する右幅、左に落款のある軸は左幅など、知っているようで知らなかった役に立つ知識を得ることができました。

私達日本人は、日本の芸術である日本絵画よりも西洋絵画のほうを身近に感じているのではないでしょうか。学校でそう習ってきたせいか、日本の絵師の日本画よりゴッホやルノワールやピカソの絵をたくさん見てきたような気がします。

佐々木正子先生のお話を伺って目からうろこの感動を覚えました。このお話を機会にこれから日本絵画にもっと関心を持ち、展覧会があれば足を運び約束事に従って鑑賞したいと思いました。

前列左から５人目が佐々木先生

奉仕チーム「きららの木」訪問

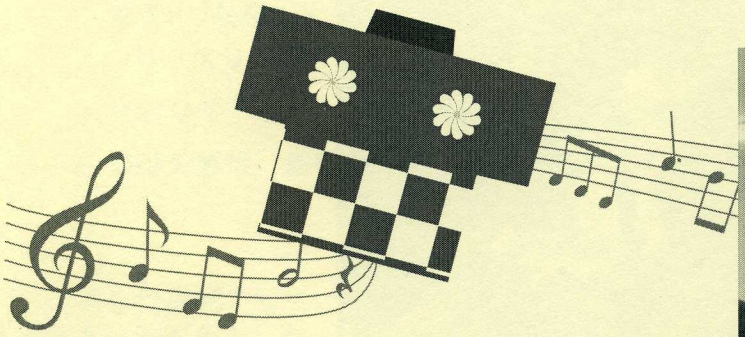
芳川　た江子

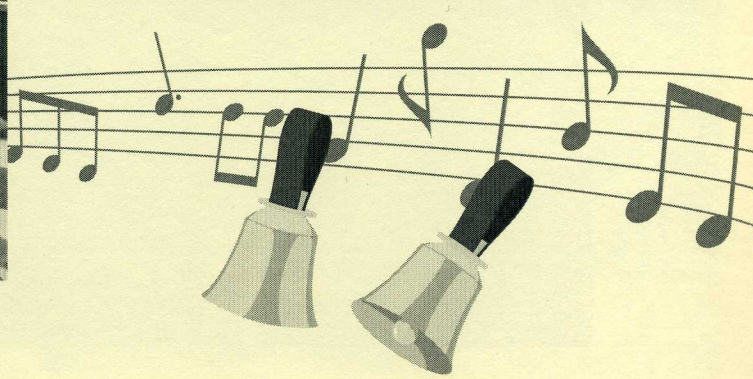
2016年10月23日（日）生駒市にあるＮＰＯ法人“きららの木”の施設に私達大阪Ⅱゾンタクラブの愉快な音楽隊のメンバーが訪問いたしました。

銭太鼓の先生の新元先生、そして一番弟子の大ちゃんと共に、総勢10名（辻・笠置・牛田・中塚・西村・幡山・宮本・芳川）で、銭太鼓３曲（さんぽ・花笠音頭・河内おとこ節）とハンドベル５曲（もののけ姫・さんぽ・エーデルワイス・森の水車・みかんの花咲く丘）の演奏を披露いたしました。この施設は、重度な障害を持つ子供達が多かったですが、スタッフの方達も含めて、銭太鼓を初めて見た人達が多く、身を乗り出して、目を輝かせて、私達の演奏を聴いてくださいました。またとても感動して喜んで下さり、本当に充実した１日でした。この施設の利用者の方達やスタッフの方達の幸せそうな笑顔を見ていると、私達の日頃の練習の疲れも吹っ飛んだようです。最後には、子供達からお礼の歌や、私達への感謝の言葉やプレゼントなどももらい、皆が“ひとつ”になったような喜びを感じ、このような奉仕活動の機会を与えてくださったことに感謝しています。

“きららの木”は、重度な障害を持つ子供を持っておられるお母さまが立ち上げられたＮＰＯ法人で、今年の６月には内閣府男女共同参画局「女性のチャレンジ賞」を受賞されておられます。また、私達大阪Ⅱゾンタクラブの訪問の様子を“きららの木”のホームページに載せてもらっています。

これからも、毎月の練習を積み重ねていき、色々な施設を訪問して銭太鼓・ハンドベルの演奏を続けていきたいと思っています。

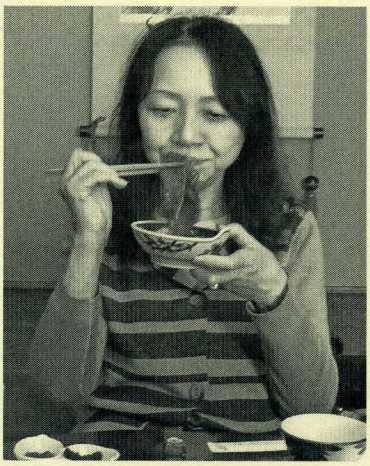




秋の伊勢

笹岡　厚子

11月20日日曜日、定刻前に全員近鉄難波駅に集合し9時20分発の伊勢志摩ライナーで一路伊勢に向かいました。所要時間は2時間半でしたが紅葉の美しい車窓を眺める間もない程お話に花が咲いてあっと言う間に目的地の伊勢市に到着しました。最初に外宮を参拝する予定で、外宮は駅から徒歩で10分ぐらいでした。以前行った時と比べると駅からの街路は大変身綺麗に整備されていました。伊勢志摩サミットの威力でしょう。参拝後は楽しみにしていた昼食。タクシーで地元の名店、若柳に向かいました。メンバーの堀さんのご推薦のお店でとろけるようなお肉のすき焼きをいただきました。満腹になったところで徒歩でと言いたいのですがタクシーで内宮に向かいました。サミットで阿部首相が各国の代表をお迎えされた宇治橋の袂に集合、鳥居をくぐって参道を内宮へと進みます。五十鈴川は流れが清らかでなぜか心洗われる気がいたします。内宮は外宮より参拝客も多いのですが森にも厳かな気が漂って神のおわす森とうかがわれます。平成25年に遷宮された社殿は、たまたまメンバーの堀さんのご配慮で遷宮の行事に参加させて頂いたのですが、その時は木曽の檜の白木の香りがむせるほどに香しかったのですが、今は少し古びて3年の歳月を偲ばせました。参拝の後はおかげ横丁で赤福を頂きお土産を買い散策して帰路につきました。幡山さんには、お忙しい中列車の切符の手配、タクシーの手配などいろいろご配慮下さりありがとうございました。おかげさまで楽しく有意義な秋の一日を過ごすことができました。



第63回国際ゾンタ世界大会（ニース）報告その2

宮本　典子

世界大会では、これまで２年間のゾンタの活動報告と次の役員選挙、そして活動計画が決められます。議事の進め方、意見の出し方は、ロバート法にのっとってあくまで厳密に、民主的に、行われます。しかしその間を縫って楽しみもたくさんありました。

今回は、もと横浜にいらしたミュンヘンⅡゾンタクラブの野崎陽子さんと京都Ⅱの今村さんのお世話で、初日にはドイツのゾンシャンと日本のゾンシャンが日本料理のレストランで交流を持ちました。日本とドイツの沢山のゾンシャンが集まり、100個ほど持って行ったベトナムのＺのヤシの木キイホルダーは一日でなくなってしまいました。ドイツは社会奉仕の盛んな国柄で、139クラブもあるそうです、また野崎さんにはニースの美味しい魚のレストランをご紹介いただきそこでは横浜ゾンタクラブの方々とお知り合いになれました（写真7-1）。このレストランは他のお店のシェフ達が仕事を終えて集まってくるお店だそうでした。

私達のお母さんクラブ、大阪Ⅰゾンタクラブのお姉さん達にはさらにお世話になりました。最後の晩餐会では、大阪Ⅰの姉妹クラブの台湾の人たちと一緒のテーブルにしていただき、交流しました。（写真7-2）中央の方は台湾の現ガバナーです。台湾からはＺクラブのお嬢さんと一緒に家族ぐるみの参加もありました。

海外では日本のキモノが大人気。キモノを着ているだけで一緒に写真をといわれます（写真7-3）。2018年の横浜世界大会の宣伝ブースも大人気でした。写真7-4は大阪の上田さんのご活躍です。横浜ではキモノを着て楽しくやりましょう。

7-1

7-2

7-3

7-4

納涼会の報告

佐野　由紀子

8月27日、土曜日の夕方、ロイヤルホテル地下の「なだ万」で、納涼会を行いました。

この時期は、皆様お忙しくて、8名の出席者という少し寂しい会となりましたが、美味しいお食事と楽しいおしゃべりを楽しみました。

今年は夏の訪れが早く、そして、いまだに厳しい暑さが続いていて、もうこの暑さにはうんざり！といった感じですから、夏の邪気を追い払うという納涼会は、今の時期にぴったりの催しかもしれません。お食事も、鱧を中心とした、いかにも「なにわの夏」といった献立でした。でも、松茸も少しはいり、秋の訪れも感じさせて頂きました。

8名という少人数でしたので、一つのテーブルを囲んで、みんなでいろいろとお話もできました。笠置会長が、色々な提案や話題を出して下さいました。今までと少し変えていった方が良いと思われることや、ゾンダクラブに対する考え方、差し迫って来ている国際ゾンダデー、エリアミーティングの件など、様々な話題に、なかなか話がつきませんでした。みんなが積極的にしゃべりあい、楽しい中にも有意義な会だったと思います。

長かった夏ももうすぐ終わりです。秋は早く過ぎ去り、あっという間にこの1年も終わりそうです。今は、一日一日を楽しく過ごしていきたいと思っています。

編集後記

今期から広報委員長を仰せつかりました。会員の皆様には、いろいろ記事をお願い致しましたが、快くお引き受けいただき感謝しております。馴れないことばかりで皆様にご迷惑をおかけしますが、今後ともよろしくお願い申し上げます。

堀　知子